

◆ 巻頭言

問うこと・夢見ること

栗田 隆子

学校にも行かず、かといって不良にもなれず彷徨していた10代。学ぶ意味を初めて知ったのは皮肉なことに学校以外の場所だった。学ぶことは、まず「問うこと」と肌で感じた。学校制度も婚姻制度も、ついでに言えば天皇制に対してもすべてが疑問で、だからこそ少し遅めに入った大学では、それらの問いに向かい合うことに夢中だった。

しかし大学院を辞めた私に「生活」という命題が立ちはだかった。この日本の世の中では「生活」と「労働」が等しいこととなっている。のんきと言われればそれまでだが、私は「生活」も「労働」も上の空で、いわゆる「社会人」となることがどうしても想像できなかった。雑草のようなたくましさもなく、どこか上の空で生きていた私は、それこそちょっとしたことで職場を転々としていた。そんな自分の生活の中で「働くこととは何なのか」という問いが自然と生まれた。しかしその「問い」は、他者との断絶を生み出している気もした。

周囲の誰もが当たり前のように働いている中で「働くことは何？」と問うことは、学校にいる際に「学ぶことは何？」と問うことにも似ており、どちらも若干の勇気が要る。だからこそ「問い」を本という形にしたかった。不安定なまま働く当事者の声を響かせ、労働と生を考え抜こうとする“働けと言わないワーキングマガジン”、『フリーターズフリー』とはそういう雑誌だ。人と人との関係を結ぶだけでなく、今ある関係の歪みを直視し、ここにはない何かを夢見ること、その両方の試みを「本」という形で表し、そして「本」を作ることによって現在の経済社会の流通の歪みを真正面に受け止めたかったのだ。問いを形にするということは、いわば今ここにはない何かを作り出すことだ。その入口に私は、私たちは立っている。



PROFILE

栗田 隆子
(くりたりゅうこ)

1973年生まれ。雇い／雇われる関係を超えた労働の可能性を探るために、有限責任事業組合フリーターズフリーを立ち上げ、現在まで組合員として活動。『フリーターズフリー vol.02』責任編集。女性と貧困ネットワーク呼びかけ人。働く女性の全国センター (ACW2) 運営委員。